おひさま通信

～卒園した子どもたちの実践から～

＊シャイン＊

卒園式の窓から

現在シャインでは2歳から6歳まで13名が通園をしています。「障害の種類や程度を問わず、希望すれば誰でも入ることができる」理念を大切にし子どもの発達や願いに沿った支援が行われています。自然豊かな黒浜沼周辺の散歩、室内サーキット、プール遊びなど、季節を感じられる生活を大切に毎日を過ごしています。

この春3名の子どもが卒園を迎えました。普段とは違う雰囲気と紅白の花に飾られた保育室に戸惑いながら緊張して入るYちゃんとMちゃん。家族がいることが嬉しくてニコニコしているSちゃん。式では自分の手で卒園証書を受け取ろうとする姿が見られたり、式が終わるとほっと安心した表情を見せていました。

愛嬌いっぱいのYちゃん

Yちゃんは2歳の誕生日を迎えて間もなく入園をしました。それまでは入院生活が長く、生活自体初めての事ばかり。見学の際はお部屋で初めてつかまり立ちをし、入園するとよちよち歩き、病室を出て初めての夏を経験しました。

ダウン症で生まれながらの愛嬌とかわいらしさでお兄さんやお姉さんに好かれ、入園当初からとてもかわいがられました。友達が楽しそうに遊んでいると「私も！」と遊びの輪の中に入り、あちこち楽しそうな場所を探索しているようです。

4歳になり、同じ年頃の子どもと集団で過ごさせたい、友達といろいろな経験を積ませてあげたい、という家族の願いもあり、年中から幼稚園を併用するようになりました。大きな集団のチャレンジで不安な面もありましたが、相談専門員とシャイン職員が幼稚園で過ごしている様子を見学させてもらったり、幼稚園とYちゃんにとって大切にしていることについて話し合い連携させていただきました。

昨年の春は、憧れであった年上の友達が卒園することでYちゃんにとってシャインの生活が物足りなくなるのではないか、と心配でしたが、年長児になると「私がお姉さん！」とみんなの前で手遊びや体操を披露したり、給食当番では先生と一緒に準備に張り切りました。今までは年上の友達についていたYちゃんでしたが、Yちゃんと一緒に遊びたい年下のお友達ができたほどです。

Yちゃんの誇らしげな姿は憧れの存在になったからかもしれません。

好奇心旺盛なMちゃん

Mちゃんは身体の手帳もあり、発作持ちで難聴の疑いもあるとのことでしたが、Mちゃんのねがいを大切にし、2歳からお母さんと通園していました。お母さんと離れると不安で泣き寝入ってしまい一日が終わることもありました。好きな遊びも手探り状態でしたが、一緒に関わる中で

楽しめるものが増えていき、水遊びや好きな絵本はビリビリになるまでめくって遊ぶ子になりました。

つかまり立ちがやっとのMちゃんでしたが、転んでも一人で立ちたい、歩いてみたい意欲がとても感じられる子に成長していきました。母と職員に見守られながら一歩を歩んだ日もシャインでした。バギーに乗っていたお散歩もいつの間にか一人で歩くことが増え、年長になると「お散歩したいよ～」と入口の柵を揺らし、出かけると先頭へ行ったり最後尾へ行ったり来たりして、沢山歩く事ができるようになりました。

また絵本を用意して「どっちの本が好きかな？」と聞くと指差しで教えてくれたり、声を出して嬉しいこと・楽しいことを沢山伝えてくれるようになりました。

お友達に囲まれて過ごすSちゃん

Sちゃんは3歳の時、他県から転園してきました。家族は身寄りがなく、3人の年子を育てていた慌ただしさがあったのか、初年度は欠席が多くみられ、継続的な支援ができませんでした。そこでSちゃん家族の負担を減らす為、送迎の提案をすると、安定して登園するようになりました。

Sちゃんは四肢体幹機能障害があり、末端に血流が行き届かなく、手足が冷たい為、足湯を行うことにしました。Sちゃんが気持ち良さそうに足を入れている様子にお友達が「私も～」と一緒に足を入れ、小さなたらいが足いっぱいになることもありました。大地の作業療法士が週一日シャインで過ごし、丁寧に声をかけたり、楽しみながらリハビリ支援を行いました。下肢関節が硬い子でしたが、毎日のリハビリで動きやすくなりました。

それまで無表情だったSちゃんは、だんだんと表情が豊かになり、嬉しい時には声を出して笑い、悲しい時には大きな声で涙を流しながら泣き、寂しい時には「抱っこして！」と大きな声を出して怒り、様々な声や表情を使い自分の気持ちを表現するようになりました。友達や先生が沢山いる中で過ごすことがSちゃんにとって嬉しい事なのでしょう。みんなと過ごした生活が、様々な活動の中で表情が豊かになったと思うと嬉しくて堪りません。

卒園しても集えるシャインになること

性格や支援の方法もバラバラな3人ですが、友達や職員と過ごし、時にはお互いを意識し、支え合いながら楽しいことばかりではなく、困難を乗り越えていった日々の生活はその子の大きな力になっていきました。

大切な我が子を預ける家族も初めての療育で不安もあったことと思います。けれど子ども達の生き生きと過ごす姿に胸をなでおろし、家族同士の繋がりができ、「シャインに来てよかった」と信頼して頂けていたことが何よりの喜びになっています。2歳児教室や幼稚園訪問など、コロナ禍で出来ないこともありますが、シャインの取り組みを地域に発信し、子ども達や家族も希望を持って生活を送ることができる事業であり続けたいと思います。

コロナになんか負けないよー！

シャイン職員　月輪　悦子

響き

白岡デイ

「余暇で作った製品を販売しよう」と販売スペースを作りました。以降Aさんはよくその前にいます。ある日、Aさんは通所するなり「これも売って」と言って家で作った折り紙作品を持ってきてくれました。職員はその作品を大々的に展示したのは言うまでもありません。

オレンヂホーム

新年度に切り替わるこの時期は、例年なら桜の花見イベントがある時期ですが、緊急事態宣言解除直後の油断できない状況。近場の見沼大用水緑のヘルシーロードを散歩しながら花見したり、テイクアウトをそれぞれ選んで買ってきて楽しんでいます。

大宮太陽の家

新年度に入り大宮太陽では仲間の自治会の改選活動を行っています。4月末現在、立候補者を募り立候補者のポスターを作成中です。改選自体初めての試みではありますが、仲間全体で自治会のメンバーを選び、仲間が主体となるような取り組みにしていけたらと思います。

はれ

はれではコロナ禍でも楽しめるように、ユニットごとにスペシャルデーと題して企画を行っています。先日は、寿司屋の職人さんに来ていただき、目の前で握った寿司を一貫ずつ提供してもらいました。「おいしい～」と嬉しそうな仲間たちと、回らない寿司に緊張する職員が印象的でした。

サンライズ

4月になり毎日暖かい日が続いていますね。コロナの第4波が懸念される中、年度はじめで仲間たちは春休みということもあり、少人数に分かれてお花見をしました。春の訪れを感じながらのんびりと楽しむことができ、とても良い時間となりました。